

令和7年度自己評価及び学校関係者評価書（集計結果）

令和8年3月5日
函館市立青柳中学校

1 本年度の重点教育目標

○自ら考え、自ら判断し、行動できる生徒の育成

2 本年度の取組の重点

校訓「自律 互恵 貢献」
 ・家庭や地域社会と連携・協働した教育活動の推進 ・「働きやすさ」と「働きがい」を実感できる働き方改革の推進
 ・誰一人取り残すことのない多様性を尊重し合う教育の推進 ・教育活動全体を通じた組織的・計画的な道德教育の推進
 ・多様な学びの場や機会の保障と学校間連携等の推進 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		概況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①確かな学力を育む教育の推進	・教育目標達成のためのバランスのとれた教育課程の編成・実施になっているか。	a	・総合的な学習の時間を軸として教育活動全体の基軸となる教育課程の適切な編成、整備が進んだ。	A	A	・授業参観等の機会がなく評価が難しい。
	・確かな学力と学ぶ力の育成を目指し、多様な指導方法の工夫や授業改善に努めているか。	b	・授業の内容を工夫し、適切な学習課題の設定および、指導と評価の一体化を図り授業力の向上を図る。	A	A	・指導方法の改善に向けた具体的な計画策定が必要 ・上位層と中から下位層の差がある。学習習慣の定着や自主的な学習ができない子もいるのでレベルに応じた個別課題の設定など学力の底上げを図る必要もあるのでは。

青柳ネット共通評価項目 別紙参照ください。

③健やかな体を育む教育の推進	・生徒の自己管理能力を高める健康安全教育の指導がなされているか。	b	・学級活動や保健体育科の指導を中心に健康安全に関する指導を一層推進する。	A	A	・校外生活も含め、生徒指導には学校と地域が協力して頑張りましょう。
	・食育や性の教育など、心身ともに健全な育成に向けた取組がなされているか。	b	・保健だよりの発行や関係機関との連携による「性に関する教育」の実施のほか、学級指導や教科指導を通して望ましい食生活や心身の健康に関わる指導を推進する。	A	A	
④学校における指導体制等の充実	・学校教育目標の実現に向けた取り組みがすべての教育活動で具現化されるよう、日々の教育活動において実践し、検証改善しているか。	b	・学校教育目標の達成に向けて、学校評価等から課題を捉え、その課題の解決に向け、各学年や分掌が連携した検証改善サイクルを確立する。	A	A	・検証改善サイクルの見える化を図り、教員ももとより生徒にも共有できればと思う。
	・全教職員が生徒指導上の課題を共有し、学校全体として組織的で適切な生徒指導が行われるように業務改善に向けた取組を推進しているか。	b	・組織的かつ協働的な指導体制の構築が図られるよう、継続的に業務の改善を推進する。	A	A	・組織体制の見直しで、指導体制の改善働き方改革につなげる必要がある。
⑤家庭・地域と連携・共同した教育活動の充実	・保護者や地域等に様々な教育活動を公開するなど、積極的な情報発信に努め、学校改善に役立っているか。	a	・学校だよりやHPを活用して保護者や地域に情報を発信するほか、地域公開授業参観や懇談会を設けるなどして、家庭や地域と連携した学校教育を推進する。	A	A	・保護者内でもHPとTETORUが頼りという声もある。これからもお願いしたい。 ・PTAによる認知症の研修は有効な企画だと感じた。 ・トンボロの配付が少なくなったのは残念
	・コミュニティスクールの取組を通して、地域人材を活用したり、地域の自然と文化、施設を生かしたりした教育活動の工夫が図られているか。	b	・函館市内での校外活動を行ったり、職業体験学習等を実施したりするなど身近な地域の文化、歴史、施設の活用を進め、地域等との連携の一層の充実を図る。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。

【別紙】青柳ネット4校共通評価項目

分野	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策等）
②豊かな心を育む教育の推進	・学校の教育活動全般を通して、道徳的な判断力や実践力の向上が図られているか。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な児童・生徒とのふれあい活動とともに定期的な調査により積極的にいじめを認知しよりよく人と関わる力の育成を図る。 ・道徳科を中心とした全教育活動を通じて道徳的な実践的判断力の育成を図る。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある子どもたちの育ちを感じる。 ・スマホ等の利用が増え、ネットのいじめや個人情報の拡散がニュースでとりあげられている。各小中学校のスマホの利用状況、フィルタリングの実態、正しい利用方法の啓発等はどうになっているのだろう。 ・総合的な学習（福祉学習）を通じて、その人の立場になって考える事を学び、相手を思いやる。困っている人を見たら助ける心を育てる事ができている。 ・校長先生はじめ先生達が登校してくる児童とあいさつを交わし、その日の様子の把握に努めている先生方のチームワークも良く、安心して通うことができると思う。
	・コミュニケーションの基本としての挨拶や返事などを通し、公共心、社会性を育むことができたか。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域で関わる人とのあいさつを大切にする風土を醸成する。 ・協働的な学習など、人との関わりを通して、よりよい人間関係を築こうとする意識を向上させる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの成果を整理し、よりよい地域作りを ・校内外にかかわらず気持ちの良いあいさつや態度をしている児童・生徒ばかり！青柳ネット全体があいさつはとても良くできていると判断して良いと思う。 ・児童館に来館する児童・生徒はきちんとあいさつや返事ができる。中学生ボランティアは地域の方ともすぐ打ち解け、行事を盛り上げてくれた ・さりげなく、爽やかにあいさつしてくれるお子さんが多い。 ・学校を訪問した際やボランティア活動で児童・生徒にあうと必ずあいさつをしてくれる。また、ボランティア活動を通じて自分たちの住む地域に目を向け、幅広い世代と交流を図ることで公共心・社会性をはぐくむことができていると思う。

項目を超えて寄せられた意見

・市民憲章の前文に、「わたしたちは、北海道の文化発祥の地、函館に住む市民です。」と書かれています。豊かな心との育成と文化は、大きく関係しているように思えます。文化芸術の振興と発展にかかわっている方々と共同学習をこれまで以上に重視してみてもいいのではないでしょうか。

・各項共通で、地域の方との連携や協力の機会を広めていただき、地域にある良いものや魅力的な人たちなどとのつながりを深めていってもらえればと思います。

・学校発で地域の WELL-BEING（ごきげんな状態）をつくっていただければと思います。まず、先生や職員がご機嫌な状態で子どもたちと接していけるような環境をつくっていただき、そのことで子どもたちがごきげんな状態になり、それが家庭や地域のごきげんな状態に日々向かって行くようになれば良いなと感じています。青柳ネットがそのごきげんな状態づくりの軸になれば理想的かなと思っています。